

いっしょに
おべんきょう
しよう!



姫路生まれの天才軍師

くろ だ かん べ え がく しゅう ちょう

黒田官兵衛学習帖

姫路市発行



しめごの官兵衛
見参!



かんべえについて
いっしょに
まなびましょう



※朱塗合子形兜 黒糸威胴丸具足 小具足付
福岡市博物館蔵・藤本健八撮影

はじめに 秀吉の天下取りを支えたNo.2の実力者

黒田官兵衛が生きていた戦国時代、播磨の大名たちは、

今の中国地方を支配していた毛利家の勢力と、

今の中部地方から京へと進出し、天下統一に向けて

さらに西へ進んできた織田信長の勢力に挟まれ、

どちらに味方をするか迷っていました。

そんな中で官兵衛は、信長の大きな才能にいち早く気づき、

織田勢に味方するよう播磨の大名たちを説得して回ります。

そして、毛利との決戦に向け、信長の右腕とも言える

家臣・羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)が姫路にやって来てから、

官兵衛の人生は大きく動きだすのです。

知略(※1)に優れた官兵衛は、秀吉の軍師(※2)として、

いくつもの戦いで勝利を呼び込みます。

秀吉の軍は毛利の待ち受ける西へ西へと着実に進みました。

ところが、いよいよ毛利の本隊と決戦という時、あろうことか、

信長が家臣の明智光秀の裏切りで命を落としてしまうのです。

そしてこの時、官兵衛がとっさに利かせた機転(※3)によって、

なんと天下統一の運が、秀吉のもとに転がり込んだのでした。

信長と秀吉という歴史に大きな足跡を残した二人の武将に認められ、

天下人に仕えるNo.2、天下統一の相談役として大活躍した官兵衛。

この学習帖では、そんな官兵衛の、先を見通す力、

誠実な人柄を物語る、九つのお話をご紹介します。



官兵衛イメージキャラクター
「かんべえくん」

注解

(※1) 知略…知恵を働かせた作戦。

(※2) 軍師…大将のもとで作戦・計略を考えめぐらす人。相談役。

(※3) 機転…その場に応じた素早い判断や考え。

官兵衛

なるほどエピソード

その壺～その九

姫路に生まれ、姫路で育った官兵衛は、
その才能を認められて、信長や秀吉の天下統一を助けました。
「姫路から天下に翔けた男」は、どんな人物だったのでしょうか。
代表的なエピソードから探ってみましょう。

なるほどエピソード

その壺

官兵衛が産声を上げた日、姫路は雪でした。

黒田家は、官兵衛の祖父・重隆の代に姫路に移り住みました。
重隆は商才があったようで、家伝の目薬を広峯神社の御札に添えて売って考え付きます。
これが成功して黒田家は裕福になり、御着城の小寺氏に仕え、やがて姫路城を任されるようになりました。
姫路城で官兵衛が生まれたのは今から450年以上前の1546年11月29日。
珍しく姫路は一面の雪景色で、家族は、この雪こそ英雄誕生のしるし、
吉兆であると大いに喜び合ったのです。

広峯神社



広瀬山(ひろみねさん)の
広峯神社にも
行ってみよう!

なるほどエピソード

その式

敵の大軍を知恵で打ち負かす賢い若者でした。

官兵衛が24才の時、青山の合戦では、龍野城の赤松政秀が三千の大軍で攻めてきました。
しかし官兵衛は相手の油断を突く奇襲を仕掛け、一説にわずか三百の兵で打ち破ったといえます。
これにより官兵衛の名はたちまち播磨中に知れ渡りました。英賀の戦いでも毛利の五千の大軍を退けます。
農民たちへのぼりや太鼓を持たせ、勝ちどきの声を上げさせて多数の援軍がいると見せかけたのです。
知略に優れた官兵衛は、若い頃からたいへん戦上手で、人々をまとめる力のある理想の上司として
家来から慕われていました。

官兵衛クイズ[問一]

官兵衛の祖父・重隆が売った家伝の目薬は、
ある木の皮を砕いたものをグツグツ煎じて作ります。
さて、この木の名前はなんと言うでしょう?

● 答え: (A) の木 答えは4ページの下を見てね!



5ページ・6ページの
マップで、(A)の木を
探してみよう!



有岡城跡



なるほどエピソード

その参

信長への忠義を忘れず耐えた牢屋での一年。

天正6年(1578年)、敵に回った荒木村重の説得に向かった官兵衛は、逆に牢に捕えられてしまいます。
信長は官兵衛が帰って来ないのは裏切ったからだと考え、官兵衛の息子の松寿丸を殺せと命じました。
官兵衛は1年後ようやく牢から救い出されましたが、信長への忠義を忘れず耐えたと分かり、
信長は謝罪します。幸い松寿丸は親友の竹中半兵衛が匿ってくれていました。
しかし官兵衛は脚を痛め、生涯不自由を強いられることとなりました。

JR伊丹(いたみ)駅前に
官兵衛が牢に入れられた
有岡城跡
(ありおがじょうあと)が
残っているよ!



かみやまざとげだん
上山里下段石垣



官兵衛は城造りの名手と言われ、現在の姫路城には、秀吉に命じられ官兵衛が築いたとされる石垣（上山里下段（かみやまざとげだん）石垣）が残されているよ！



※現在の姫路城の天守閣（てんしゅかく）は官兵衛の時代には無く、のちに池田輝政（いけだてるまさ）という大名によって造られました。

なるほどエピソード

その四

将来、姫路が栄えると最初に見抜いた官兵衛。

毛利との決戦に向け、信長の右腕の家臣・秀吉が播磨にやってくると、官兵衛は自分の城である姫路城を譲り、妻鹿の国府山城に移ります。姫路は播磨の中心に位置。山陽道、美作道、但馬道など街道が集まり、海も近い交通の要所です。また、周囲に豊かな農耕地や生野銀山を控える経済の要所でもありました。官兵衛は、毛利との戦いにおいても、天下統一後の平和な世の中においても、姫路が重要な役割を果たすと見抜いて秀吉に城を譲ったのです。

なるほどエピソード

その伍

人々をあっと驚かせた備中高松城攻めの作戦とは。

今の岡山市にあった備中高松城は、周りを湿地に囲まれ、攻め込むのがたいへん難しい城でした。そこで官兵衛が考え出したのが“水攻め”です。湿地帯であることを逆手に取り、近くの川から大量の水を引いて、城全体を水で封じ込めようというのです。秀吉の軍は城を取り囲む高さ約7m、長さ約4kmもの堤防をわずか半月で築き上げ、内側に水を引き込みました。一面の水の中にぽつんと取り残された城では敵は手も足も出ません。大将の秀吉を助けるNo.2として、官兵衛はまたしても勝利を呼び込んだのです。



官兵衛クイズ〔問二〕

秀吉軍は“水攻め”のため、川の流れを変えようとします。しかし流れの勢いが強く、人力ではせき止められません。さて、官兵衛はどのようにして流れをせき止めたのでしょうか？

- 答え：流れの途中に、大きな石を積み込んだ（B）をたくさん沈めてせき止めた。

答えは5ページの
下を見てね！

〔中国大返し図〕



なるほどエピソード

その六

官兵衛の進言から始まった奇跡の「中国大返し」。

官兵衛と秀吉が備中高松城を水攻めで追いつめている時、京都で「本能寺の変」が起きました。家臣のひとり明智光秀の裏切りに遭って信長が命を落とすのです。知らせを聞いた秀吉は泣き崩れて悲しみますが、官兵衛は「次の天下は裏切り者の光秀をあだ討ちした者に回ってきます」と冷静に進言。自らの使命を悟った秀吉は、世に言う「中国大返し」を強行します。わずか七日で全軍を大阪へ移動させ、光秀の軍が十分な準備をする暇を与えません。そして翌日の山崎の合戦でこれを撃破。劇的なかたちで天下統一の扉を押し開いたのです。

機転を利かせた官兵衛の一言が、秀吉を動かしたんだね！



なるほどエピソード

その七

血を流さず戦いの決着をつけた平和への願い。

官兵衛は戦がたいへん上手な武将でしたが、本当は人を殺すのが嫌いでした。できるだけ話し合いで決着をつけました。秀吉を補佐したのも、天下が統一されて平和な世の中になるのを願ってのことです。秀吉の天下統一の仕上げとなった小田原城攻めでも、官兵衛は北条氏政・氏直親子を説得するために小田原城に乗り込みました。平和を願う官兵衛の誠意に感激した北条親子は、停戦して降伏することを約束しただけでなく、官兵衛に贈り物まで与えたほどでした。



官兵衛は、お椀(わん)をひっくり返したような合子形兜(ごうすなりかぶと)をかぶっていたよ!



なるほどエピソード

その八

戦いのない世の中を作るためだった九州拳兵。

秀吉が亡くなり、徳川家康と石田三成の間に次の天下を巡る争いが持ち上がります。しかしその頃、今の大分県の中津城にいた官兵衛はまた違う考えを持っていました。両者が争う間に、今度こそ自ら天下を統一し、戦のない理想の世の中を作ろうと、まずは九州から統一に掛かります。ところが関ヶ原を舞台とした家康と三成の天下分け目の戦いはたった一日で決着。家康の天下となり、官兵衛の出る幕はなくなりました。官兵衛はあっさり家康に服従。息子の長政に与えられた今の福岡県の領地に移り住み、そこでも家来や民衆から広く慕われたといえます。

中津城



大分県「中津城」の近くには「姫路町」の町名が今も残っているよ!



なるほどエピソード

その九

キリスト教を信じ、妻を愛し、理想に生きた官兵衛。

官兵衛は若い頃からキリスト教に関心を持ち、一緒に日本へ入ってきた西洋の合理的な思想も進んで吸収しました。また和歌に熱中したこともあり、そうした宗教や思想や文学を通し、人間と世界を深く理解していました。そして理想を持つ大切さを知っていました。戦の止まない時代にあって平和な世の中を作るため戦ったことも、話し合いで争いを収めようとしたことも、この時代には珍しく生涯一人の妻・光姫だけを愛したことも。官兵衛は自らの一生を、理想に向かって捧げたのです。

姫路城の瓦



姫路城には十字紋(じゅうじもん)の鬼瓦(おにがわら)が残り、キリシタンだった官兵衛ゆかりのものではないかといわれているよ!



官兵衛クイズ[問三]

荒木村重に捕えられ、1年も牢に閉じ込められた官兵衛。苦しい日々の慰めは、檻の隙間からわずかに見える植物でした。蔓の先に美しい紫の花を垂れ下げて咲かせ、官兵衛が黒田家の家紋にもしたこの花の名前は何と言うでしょう?

● 答え: (C) の花 答えは6ページの下の見てください!



光イメージキャラクター「てるひめちゃん」

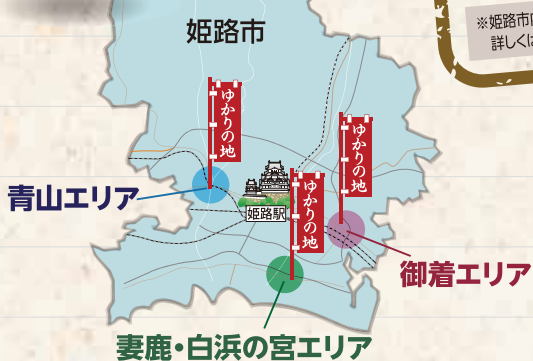
官兵衛イメージキャラクター「かんべえくん」



かんべえ 官兵衛ゆかりの地を 歩いてみよう!

※姫路市内には、このページで紹介した以外にも、黒田官兵衛ゆかりの地が多くあります。詳しくは、ひめじ官兵衛プロジェクトホームページをご覧ください。<http://himeji-kanbee.jp/>

※各コースに記載の所要時間は目安です。官兵衛ゆかりの地を赤色の文字、その他の見どころを紺色の文字で表現しています。



御着城址にある姫路市東出張所はお城の形だよ

妻鹿駅・白浜の宮駅周辺コース

出発	山陽電車 姫路駅	約10分	山陽電車 妻鹿駅	徒歩5分	1 黒田職隆廟所	徒歩7分	2 国府山城址	徒歩10分	3 情緒あふれる町並	徒歩5分	山陽電車 妻鹿駅	約3分	山陽電車 白浜の宮駅	徒歩3分	4 松原八幡神社
----	----------	------	----------	------	----------	------	---------	-------	------------	------	----------	-----	------------	------	----------



3 情緒(じょうちよ)あふれる町並
19世紀に建てられた備蓄倉庫「固寧倉(こねいそう)」や、「灘のけんか祭り」の屋台を格納する「屋台蔵」、昭和2年建造の姿が残る「妻鹿町自治会館」など、歴史の情緒あふれる町並を楽しめる。



1 黒田職隆廟所 (※1) (くろだもたとかびょうじよ)
天正13年(1585)に国府山城で亡くなった官兵衛の父・職隆の墓所。住宅街にあり、地元では「筑前(ちくぜん)さん」と呼ばれて親しまれている。



2 国府山城址 (こほりやまじよし)
官兵衛の父・職隆が築いた城。妻鹿城とも呼ばれる。秀吉に姫路城を譲った官兵衛は職隆とともにこの城に移った。祖父・重隆の妻が当地の名門・妻鹿氏の出身で、黒田氏と妻鹿の結びつきは強い。



4 松原八幡神社 (まつばらはちまんじんじや)
官兵衛が広峯神社とともに厚く敬(うやま)った神社。秀吉がこの神社を芝原(今の姫路市豊沢町)に移すよう命じた時、官兵衛が松原は由緒(ゆいしよ)ある地と説得し、当地で存続することができた。

ごちゃく御着駅周辺 てくてくマップ

注

(※1) 廟所…祖先や先人の霊(れい)をまつる建物。(※2) 近習…主君のそば近くに仕えて奉仕(ほうし)する役。(※3) 顕彰碑…その人の良い行いや成しとげたことを賞賛する石碑。



- ### 出発 御着駅周辺コース
- 1 大歳神社 徒歩3分
 - 2 御着城址 徒歩5分
 - 3 黒田家廟所 徒歩5分
 - 4 小寺大明神 徒歩5分
 - 5 壇場山古墳 徒歩15分
 - 6 牛堂山国分寺 徒歩15分



2 御着城址 (ごちゃくじょうし)
黒田氏が仕えた小寺氏の本城。官兵衛は小寺政職(まさもと)に才能を認められ、黒田家を継ぐまで御着城で政職の近習(※2)(きんじゅう)として仕えた。御着城址公園内には官兵衛の顕彰碑(※3)(けんしょうひ)もある。

3 黒田家廟所 (※1) (くろだげいようじよ)
御着城址の一角にあり、左に官兵衛の祖父・重隆、右に生母・明石氏の供養塔が並ぶ。黒田家が福岡へ移り、一時さびれていたが、黒田藩十代藩主・斉清(なりきよ)によって再建された。

5 壇場山古墳 (だんじょうざんこふん)
5世紀前半に築かれた前方後円墳(ぜんぽうこうえんぶん)で全長143m。県下3位、西播最大級の規模。後円部頂上に石椁(せきかん)の一部が露出(ろしゅつ)する様子など、登って古墳の形を実感できる。

6 牛堂山国分寺 (うしどうざんこくぶんじ)
天正6年(1578)、毛利軍が上月(こうづき)城を包圍。秀吉の軍が救援に向かった隙(すき)に東から別所(べっしょ)勢が攻めて来たため、官兵衛は急きよこの国分寺へ引き返し、撃退したといわれる。



青山エリア てくてくマップ

- ### 出発 青山エリアコース
- 1 土器山 青山合戦陣地跡 徒歩15分
 - 2 常夜燈 徒歩15分
 - 3 青山の道標 徒歩7分
 - 4 稲岡神社 徒歩6分
 - 5 青山古戦場跡 徒歩2分



5 青山古戦場跡 (あおやまこせんじょうあと)
官兵衛が初めて指揮し、赤松政秀の軍勢を撃退した古戦場跡。三千に対し三百の兵で奇襲を仕掛けて勝利したとされ、その名が播磨中に知れ渡った。現在はゴルフ場になり、石碑が歴史を伝えている。

4 稲岡神社 (いなおかみんじや)
稲の霊(れい)に関する神を祀(まつ)る。稲岡山は「播磨国風土記」(はりまのくにふどき)に記された稲丘(いなおか)であるとされる。県指定文化財「お蔭参り図」の絵馬、盛んだったそうめん業の記念碑もある。

3 青山の道標 (あおやまのどうひょう)
旧山陽道と因幡街道(いなばかいどう)が交わる場所にある。西は備前(びぜん=岡山)など、東は大坂や江戸、北は因州(いんしゅう=鳥取)など行き先が記され、交通の要所だったことが分かる。

1 土器山 青山合戦陣地跡 (かわらけやま あおやまかっせんじんじちあと)
青山の合戦で官兵衛は夢前川東岸の土器山山頂に陣を構えた。赤松政秀の軍勢が龍野方面から押し寄せ、夢前川西岸の青山に陣を敷く様子を一望できたと考えられる。

しょうがい [年表に見る黒田官兵衛の生涯]

1546 (1歳) 官兵衛誕生(幼名・萬吉)。

1561 (16歳) 主君・小寺政職の近習となる。

1562 (17歳) 初陣。元服し、官兵衛孝高と名乗る。

1567 (22歳) 志方城主・榊橋氏の娘(光姫)を妻とする。家督を継ぎ、姫路城主となる。

1568 (23歳) 嫡子・長政(幼名・松寿丸)誕生。

1575 (30歳) 小寺政職を説得し、織田信長に帰属することを決める。信長より名刀「庄切」を賜る。

1576 (31歳) 英賀で五千の毛利軍を退ける。官兵衛の手勢はわずか五百だったともいわれる。

1578 (33歳) 摂津国有岡城主・荒木村重が信長に謀反。単身説得にあたるも幽閉される。

1579 (34歳) 有岡城が落城し、救出される。

1580 (35歳) 三木城落城。
秀吉に姫路城を譲り、国府山城に移る。
損東郡などで1万石を与えられる。

1582 (37歳) 備中高松城攻め。

本能寺の変。秀吉に「中国大返し」を進言し、山崎の合戦で明智光秀を破る。

1583 (38歳) 大坂城築城の縄張りをする。キリスト教に入信(洗礼名・シメオン)。

1587 (42歳) 豊前国6郡12万石を拝領。中津城主となる。

1589 (44歳) 家督を長政に譲り、隠居。如水と名乗る。

1590 (45歳) 小田原城攻めにて北条氏との講和をまとめる。北条氏直から名刀「日光一文字」を贈られる。

1600 (55歳) 関ヶ原の合戦。
官兵衛は中津城にあって兵を募る。九州の大半を制圧するが、徳川家康の命に従い、停戦する。

1604 (59歳) 死去。

※注:この表では簡略化のため、黒田官兵衛の年齢を「数え年」で記しています。広く使われる「満年齢」は生まれた年を0歳とし、誕生日を迎えるごとに1歳ずつ加えますが、「数え年」は生まれた年を1歳とし、以後1月1日を迎えるごとに1歳ずつ加える年齢の数え方のひとつです。

ゆかりの地をまわった感想や、官兵衛について自分で調べたことなどを書こう!



